



町内各地で稲刈り体験

10月10日、若葉保育園（津田庸子園長・136人）の年長児が福島則義さん（木倉）の田んぼで、17日、滝尾小学校（河地浩太郎校長・59人）の5年生12人が村上新次さん（滝尾）の田んぼで、さらに21日、御船小学校（中野浩幸校長・348人）5年生61人が里山敏治さんの田んぼで、JAかみましき青壮年御船支部（米田真伍支部長）による稲刈り体験を行いました。子どもたちは、手刈りだけでなく、コンバインでの稲刈りやかけ干し、脱穀などを体験し、お米の作られ方、お米の大切さを学びました。

1.2_稲刈りを体験する園児たち
3_稲刈りを村上さん教わる（滝尾小）
4.5_稲刈りを体験する滝尾小の児童たち
6_福島さんから教わる園児たち
7_米田支部長の説明を聞く御船小の児童たち
8.9_稲刈りを楽しく体験（御船小）
10_コンバインでも稲刈り（御船小）

認知症サポーター"応援の輪"が増えています

御船町では、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守る応援者（認知症サポーター）を養成し、認知症の方を支える地域づくりを進めています。10月は、御船・木倉・七滝中央小学校の3校で認知症サポーター養成講座を行い、児童たちは、共に支え合う社会の大切さについて学びました。受講した児童からは「認知症の方が困っている時には声をかけて助けてあげたいです」「認知症高齢者の方に対して、優しく接し、元気よく挨拶したいです」という感想が聞かれました。



七滝中央小学校 6年生の認知症サポーター



御船小学校 6年生の認知症サポーター



▲各小学校での養成講座の様子

伝統神楽存続のため～青年会が立ち上がる

五穀豊穡に感謝する中原神社例大祭が10月15日、中原神社（上野）で開催され、地域住民が参拝しました。築700年以上の歴史を持つ同神社では、年々神楽保存会員の減少により、神楽奉納が存続の危機でしたが、今年から地域の若手を中心とした中原神社神楽保存青年会（竹崎健太郎会長）を立ち上げ、他神社の神楽保存会員の力を借りることで神楽奉納が実現。約20年ぶりに披露するのは、肥後神楽のうちの「国津の舞」。槍を持った鬼神が力強く舞い、参拝者を驚かせていました。熊本市から参拝に訪れた吉永朱里さん（中1）は「初めて神楽奉納を見て迫力があって歴史を感じた。また見に行きたい」と話しました。



荒ぶる鬼神の「国津の舞」

ペッパーでプログラミング英語教室

10月15日、御船小学校の3年生を対象に御船高校（栗谷雅之校長）電子機械科の生徒が Softbank の Pepper（ペッパー）を使ったプログラミング英語教育を行いました。子どもたちと親しみやすい Pepper を活用し、分かりやすく授業するにはどうすればいいかを考え、高校生がロボブロックで一つ一つをプログラミング。授業では、「Who am I?（私はだれでしょう?）」のクイズを Pepper が行い、児童たちは Pepper と一緒に楽しく英語を学びました。



Pepper で楽しく英語指導

働く喜び、楽しさを体験！

10月13日、町商工会青年部（永本達也部長）主催による jojokids（職業体験イベント）「MAZEKURU by みふね」が小坂小学校で開催され、小学生を対象に先着175人が参加しました。町内にある「料理屋さん」「ネイルサロンやさん」など18種の職業の中から3つの仕事を選択。一つの仕事が終わるたび、給料をもらい、銀行で記帳します。お茶乃のぐち園でおいしいほうじ茶作りを体験した坂本宗介くん（御船小）は「気持ちを込めてお茶を淹れることを学んだ。もっとお茶が好きになった」と話し、働く喜び、楽しさを体験しました。

